

沖縄国際大学沖縄経済環境研究所

平成 29 年度 第 2 回研究会

泡瀬干潟のラムサール条約

湿地登録に向けた現状と課題

【概要】

環境省が、2010 年に発表したラムサール条約の基準を満たした国内の湿地 172 カ所のうち、県内からは名護市東海岸の大浦川や泡瀬干潟等の湿地 24 カ所が選定された。同条約の登録湿地となるためには、地元自治体の賛同や鳥獣保護法など国内法による保護措置を講じた上で、3～4年に1度開かれるラムサール条約締約国会議で承認される必要がある。

沖縄県当局は、地元自治体と協議しつつ、泡瀬干潟等の登録の可能性を探っている。次回の締約国会議は、アラブ首長国連邦で 2018 年 10 月に開催される。来年の、泡瀬干潟の同条約湿地登録に向けた現状と課題について講師よりご報告頂くと共に、沖縄県内の湿地の「保全」と「賢明な利用」について考えていく。

日 時：2017(平成 29)年

9 月 15 日 (金)

16 時 30 分～18 時

場 所：沖縄国際大学

13 号館 1 階研究所会議室

対 象：学生・一般・教職員

備 考：申込不要・参加無料

◆◇研究会講師◇◆

小林 聡史 氏 (釧路公立大学経済学部教授)

北海道大学大学院学術博士 (環境保全学)。JICA 長期専門家 (タンザニア、国立公園管理) 等を経て、91～96 年には、釧路市からスイスのラムサール条約事務局に派遣され、同事務局に勤務。日本で最初にラムサール条約に登録された、日本最大の湿原「釧路湿原」を有する釧路市の釧路公立大学経済学部にて、97 年より教鞭を執っている。環境省ラムサール条約湿地候補地検討会委員等を歴任。

主催：沖縄国際大学沖縄経済環境研究所

お問い合わせ先：沖縄経済環境研究所 TEL：098-893-7967 (内 6120) E-mail：leechr@okiu.ac.jp 研究支援助手 比屋根良直